

シャコガイの陸上養殖について技術交流会

1. 目的

宮古地区においては資源管理型漁業を推進するため、現在ヒメジャコの放流・養殖を推進している。そういった中で伊良部町においては一部陸上養殖を開始しているが、養殖技術が不十分面もあり、十分な成果を上げるには至らない。そこで八重山漁協貝類生産グループで行われているシャコガイの陸上養殖・放流事業を視察し技術交流をおこなうこととなった。

2. 交流先

八重山漁協貝類生産グループ

3. 日程

2月4日(木)

名蔵湾シャコガイ放流現場視察

石垣市種苗供給施設視察

石垣市種苗供給施設にて貝類養殖研究会と意見交換会

2月5日(金)

沖縄県水産試験場八重山支場にてシャコガイ種苗生産施設視察

4. 参加者

伊良部町漁協：長間 浩

：友利 義文

宮古支庁農林水産振興課：中田 祐二

5. 交流内容

1) 名蔵湾シャコガイ放流現場

八重山漁協貝類生産グループの上原政則氏の船でヒメジャコの放流現場まで案内してもらう。現場の説明でヒメジャコの放流はもう10年も前から行われているとの説明があった。放流現場は陸からの赤土流入などの影響もあるとのことであった。ここで放流しているヒメジャコは紺

色のものは収穫しているが、商品価値の低い茶色や黄土色のヒメジャコは資源確保のために残しているとの説明を受けた。

2) 石垣市種苗生産施設

県の指導漁業士である、池田元氏よりシャコガイの陸上生産の現状の説明を受けた。同氏の話ではもっぱら成長の早いヒレジャコを生産しているとのことでヒメジャコの生産を中心に話をされた。ヒレジャコは約5cm～6cm間では陸上で養殖しているが、それ以後は海中に4本足の籠を作り、海中で飼育しているとのことであった。長期の陸上飼育はシャコガイを弱くするとのことであった。

この後、同施設内でこの海中に入れる籠の制作方法などの説明があった後、ヒメジャコやヒレジャコの放流・養殖についての意見交換を行った。

3) 県水産試験場八重山支場

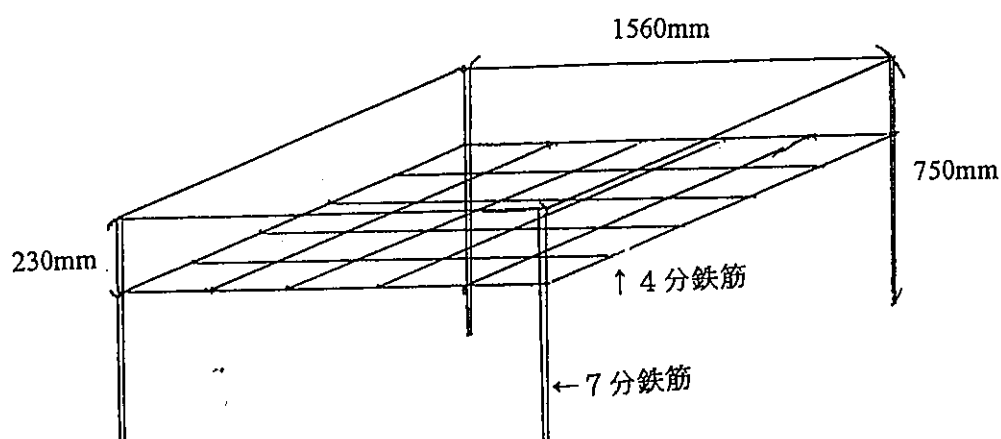
伊良部町のシャコガイの種苗は県水産試験場八重山支場で生産されているので、同支場で行われているシャコガイ種苗生産を視察した。シャコガイを担当している主任研究員の玉城信氏による説明で施設を視察した。

6. 所感

今回の技術交流会で感じたことは、シャコガイの放流・養殖の技術的な面では八重山はかなり進んでおり、特に養殖物に関しては今後の課題が既に販売面へ移行していることを聞き技術的な開きを感じた。シャコガイの販売面では、本土のペットショップに売るなどしてより高く売ろうとしているが、そのときにシャコガイの外套膜の色が価格に大きく係わってくるので、これからはより価格の高い、ニーズにあった生産が必要になっていくのであろう。

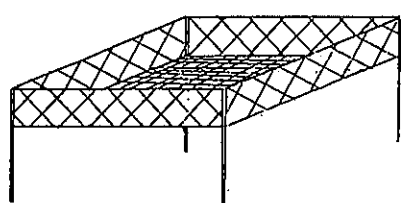
沖だし用のかごの制作

かごの骨組み



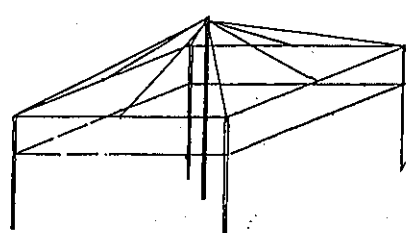
4本の足は7分鉄筋を使用
底の鉄筋は4分鉄筋を使用
それ以外の骨組みにはエスレンパイプを使用

かごの目合い



底は10mm目のネトロンネットを使用
横は20mm目のかご網に用いるネトロンネット

マダラトビエイから食害を防ぐための簡易シェルター



中央に支柱を立てネットを周囲に張り
エイが入ってこないようにする

